

こんな感覚を味わえるかもしれません

- ◇ それまでの自分をいったん脇におく感覚
- ◇ そのままでいいんだ
- ◇ 傷ついている自分をいつくしむ
- ◇ 「傾聴」「共感」とは違った感覚で人とつながる・・・など

矢が花に変わる ワークショップ

案内役

スティーブン・ポクリントン氏
(通訳：宮本有紀氏)

日常生活の中でつながりが断たれていると感じ、自分に対し矢がはなたれたように感じたことはありますか。そのようなとき私たちは、お互いのこころの奥底にある真実の声を聞くことがますます難しくなるのではないのでしょうか。

もし、自分の傷つきやすさや恐れの原因に目を向け、受け止めたときに見えてくる世界にこころをひらくことができたなら、相手の姿はどのように見えてくるのでしょうか。その人の痛みや苦しみにこころを開き、自分と人への慈しみの気持ちに根ざした、『矢が花にかわる』スペースをひらくことができるでしょう。

このワークショップでは、人に本来備わっている、慈しみの気持ちの土壌を耕し、慈しみに根ざした、こころの出会いと交流のあり方をともに学び、試してみます。

経験や職種は問いません。『矢が花にかわる』ようなこころのあり方と交流に関心をお持ちの方のご参加をこころよりお待ちしております。

2017年10月21日(土)・22日(日)の2日間

会場：宮城大学サテライトキャンパス

仙台市青葉区中央4丁目6-1 住友生命仙台中央ビル(SS30) 2F

参加費：2日間で6,000円(※1) / 定員：20名程度

申込み方法：メールまたは郵送でお申込みください。

(お問合せ・申込先につきましては、裏面の参加申込書をご確認ください。)

※1：経済的事情を抱えた方・遠方(新幹線、飛行機をご利用される距離)からの参加で、希望される場合は割引いたします。

主催 WRAP 研究会 in せんだい
協力 宮城大学

*このワークショップは文部科学研究費からの助成を一部受けています。

科研費
KAKENHI

「矢が花に変わるワークショップ」 参加申込書

宛 先 WRAP研究会 in せんだい

メール wrap_sendai@yahoo.co.jp

郵 送 〒980-0811

仙台市青葉区一番町4丁目1-3

仙台市市民活動サポートセンター メールボックス34番

ふりがな

お名前

ご住所

電話番号

メールアドレス

料金の割引について

希望する（希望される方はをお願いします）

希望する理由についてご記載をお願いします。（記載がない場合は割引はいたしません）

通信欄